

中高科へのヒント 10~12月

10/5

●話し合ってみよう

1. ヨナタンがダビデを深く愛するきっかけとなった出来事は何か。→ ゴリアテ事件（サムエル上17:41~58）。ダビデの勇気、人柄を好きになったと見えるが、それよりもダビデと同じ主なる神を信じる信仰のゆえと考えられる。
2. ヨナタンは、自分が着ていた服を脱いでダビデに与えた。これは何を意味しているか。→ ヨナタンはダビデこそ自分よりも王位継承にふさわしい者と認め、その権をダビデに譲ろうとした。

●考えてみよう。

1. ダビデとヨナタンは同じ神を信じる信仰に立っていた。その友情の特徴は何か。→ ①自分を無にして相手のことを思う。②「死に至るまで」いや死後も永遠に続く友情。
2. ヨナタンとダビデとは契約を結んだ。その理由とは。→ 二人の間に主がおられ、自分の命のようにダビデを愛したから。

●自分に当てはめよう

1. 本当の友とは、自分が苦しい時、悲しい時、困っている時に逃げないで、一緒に居て助けてくれる人。^{だれ}誰かそのような方がいるだろうか。→ 主イエスこそ、そのような方である。
2. 友情は何かを行動に移すときに強くなる。教会でも共に奉仕し、共に伝道する兄姉とは、もっと親しくなる。私たちにもそのような人が与えられるように祈ろう。

10/12

●話し合ってみよう

1. サウルがダビデを殺そうとしたのはなぜか。→ イスラエルの王位がダビデに移ることを恐れていたため。
2. サウル王の家族の食事会をダビデは欠席した。このことでダビデは何を知ろうとしたのか。→ サウル王がどのような態度をとるか。それで王の真意を知るため。

●考えてみよう

1. この時期のサウル王は、どのようなものだったか。→ イスラエルは神の支配される国であることを忘れ、自分の国、自分の息子が受け継ぐべき国と思い込んでいた。
2. 王になる前と王になってからでは、サウルはどのように変わったか。→ 最初サムエルから油を注がれた時、荷物の中に隠れていた。^{けんそん}謙遜があったが、王になってからのサウルは、^{ごうまん}傲慢になった。
3. ヨナタンはダビデを守るために何をしたか。→ 友情の契約をした。具体的には「あなたと私とで話し合った事については、主が常にあなたと私との間におられます」と言ったこと。
4. ダビデとヨナタンを強く結びつけたものは何か。→ 一つは愛であり、もう一つは主である。

●自分に当てはめよう

1. ダビデとヨナタンの友情契約は、愛と主によって守られた。私たちもヨナタンのように友のために犠牲を払う人になりたい。

10/19

●話し合ってみよう

1. サウル王から逃げたダビデは、イスラエルの敵であるペリシテ人の町ガテへ行った。なぜか。→ イスラエルの領内ならばどこへ逃げても駄目だと考えたから。
2. ダビデの親派が数百名、ダビデのもとに集まったところはどこか。→ アドラムのほら穴。

●考えてみよう

1. ヨナタンは神の御旨を悟ることができた。それはどのようにしてか。→ 神の御旨を受け入れることのほうが大切だと認めたため。
2. ダビデは決して自分からサウルに戦いをしようとはしなかった。なぜか。→ 主に油注がれた方だから。
3. ダビデはサウルが自分の命を求めて出て来たので恐れた。私たちにもそのような八方ふさがりの時はないだろうか。→ ありえる。例えば、病気や事故、人間関係のもつれ、事業の失敗等。

●自分に当てはめよう

1. サウルの魔の手は幾度もダビデのすぐそばまで迫ったが、ダビデは守られた。なぜか。→ 「神は彼をその手に渡されなかった」(14) とあるように、神がご計画のうちにダビデを守り導かれていたため。
2. ヨナタンは、これからのダビデの台頭によって、多くのものを失うことになるはずなのに、王位継承を譲り、自分は裏方に回る道を選んだ。なぜか。→ 契約を結んだことによって。

10/26

●話し合ってみよう

1. 人の意見を聞くダビデだったが、サウル王を手にするという従者の意見は受け入れなかった。それはなぜか。→ サウル王は、主が油を注がれた者であるから、彼に敵して、自分の手をのべるのはよくないと信じていたから。
2. ダビデの偉大さとは何か。→ 主の御旨に従うことを何よりも大切にしていたこと。主に油注がれた人が悪いことをするなら、主ご自身が責任をもってさばかれるという信仰をもっていた。

●考えてみよう

1. ダビデは、兵士たちがサウル王を殺すことを許さなかった。それはなぜか。→ 主がイスラエルの王に選ばれた方だから。
2. ダビデは祝福された。それはなぜか。→ 主が愛して特別な存在とされたサウル王を殺すことをせず、大切にしていたから。

●自分に当てはめよう

1. サウル王は、ダビデとその兵士たちがいるほら穴とは知らずに、トイレとして使うために入った。そのときダビデはサウルの上着の「すそ」を切った。その後ダビデはどう思ったか。→ 悔やんだ。
2. もし皆さんがある友だちから、叩かれたり、嫌なことを言われたら、いつか仕返しをしてやろうと思っている時に、そのチャンスが来たらどうするか。→ ダビデのように、仕返しをするのではなく、大切に接し、祈りたい。

11/2

●話し合ってみよう

1. ダビデはどのようなところから王になったのか。→ 名もない羊飼ひ。
2. イスラエルの国を統一したダビデは、人生を振り返ってどのような歌を歌っているか。→ すべては神の恵みだったと、感謝の歌を歌っている。
3. ダビデは神の偉大さに心震える思いがした。どんな偉大さか。→ 空を見上げると美しい星が宝石のように輝いており、神の創造の偉大さに驚嘆して。

●考えてみよう

1. ダビデはイスラエルの王として、どのように国を治めたのか。→ 神のみこころが何であるかと、祈りながら神を恐れて治めた。
2. ダビデは神の何を疑わなかっただろうか。→ 万事を益としてくださることを疑わなかった。
3. 人を正しく治めるために必要なことは何か。→ 主を恐れること。自分は絶対的な権力者ではなく、主のしもべでしかない。主に仕えるように人々にも仕えていくのだ。もし自分勝手なことをしたら、主が自分をさばかれるという自覚が必要。

●自分に当てはめよう

1. ダビデのように神と共にある生涯を送るために、私たちは具体的にどんなことをしていくべきだろうか。→ 毎日聖書を読み、喜んで人々に仕え、主のみこころに従っていく。

11/9

●話し合ってみよう

1. アタリヤという王の母は、王である自分の息子が死んだことがわかった時、どうしようとしたか。→ 自分が王となって国を治めようとした。
2. アタリヤは、1. の次に何をしようとしたか。→ 王の一族すべてを滅ぼそうとした。
3. 祭司の妻エホシバは、アタリヤの行動を知って、どうしたか。→ 皆殺しにされる王子たちの中から、ヨアシを神殿にかくまった。

●考えてみよう

1. ヨアシ王は何歳で即位したか。→ 7才。
2. ヨアシは王になってした事は何か。→ バアルの神殿を壊した。
3. ヨアシが偶像礼拝をしていたイスラエルの国を、正しい信仰に導くことができた理由は何か。→ 祭司エホヤダの指導を受けていたため。
4. ヨアシが祭司たちに、壊れている神殿の修復を命じたのに、祭司たちは実行しなかった。なぜか。→ ①神殿の修復に関心を持たなかったから。②民からの尊い献げものを自らの懐に入れていたから。③ヨアシ王の命令を、軽く見ていたから。いずれにせよ、権力を得た祭司たち自身の、神を畏れる心が乏しくなっていた。

●自分に当てはめよう

1. 主を畏れない人の心は、どのように表れるか。→ 偽りという形で現れる。
2. 私たちもヨアシ王のように、神を畏れ、神から愛され知恵と力をいただいて主の業に励もう。

11/16

●話し合ってみよう

1. ユダヤ人虐殺の詔が出されたきっかけは何だったか。→ 時の高官ハマンが、自分を拝礼することを拒んだユダヤ人であるモルデカイに腹を立てたため。
2. ユダヤ人虐殺の知らせを聞いたモルデカイは、エステルに願った。それはどんなことか。→ エステルが王のもとへ行って、ユダヤ人への王のあわれみを請うことを願い求めること。

●考えてみよう

1. モルデカイの願いを聞いたエステルは快諾することができなかった。なぜか。→ 王に召されてもいないで、内庭に入って王のもとに行く者は必ず殺されることになっていたため。(但し、王が^{しやく}笏を伸べれば殺されずにすんだ)。
2. エステルの返答を聞いたモルデカイは、決心を促すために二つのことを説いた。それは何か。→ ①今、エステルが黙れば、他から助けが来て、エステルと父の家は滅びる。②エステルが王妃として選ばれたのは、この時のためだったということ。
3. エステルは一つの決心をして王のもとに行った。どんな決心か。→ 「わたしがもし死ななければならないのなら、死にます」というものだった。

●自分に当てはめよう

1. エステルは、自分の生死すらも委ねて、すべて神に従った。私たちも己を明け渡して従おう。

11/23

●話し合ってみよう

1. 収穫感謝の礼拝の習慣はどのようにして始まったか。→ 1620年に海を渡った清教徒が、新天地での飢餓を経て後に与えられた初めての収穫に対して、神に感謝を献げたことに始まる。
2. 詩篇128篇の作者は、神の祝福を記しているが、どのような者に与えられる祝福を言ってるか。→ 主を畏れ、主の道に歩む者。
3. 主が豊かな祝福を注がれるその第一の祝福、そして第二の祝福は何か。→ 第一に、勤労の実。第二に、家庭における祝福。

●考えてみよう

1. ここに出てくるオリブの若木は、何を意味するか。→ 神から与えられた喜びと希望を象徴している。
2. 「ぶどうの木」は何を表しているだろうか。→ 実を結ぶ良い妻。
3. この詩篇記者にとって、個人と家庭の祝福は、それだけに終わるものではなく、どのようになっていくと言っているか。→ イスラエル全体の祝福につながる。

●自分に当てはめよう

1. 神の祝福にあずかる秘訣とは何か。→ まず神第一の歩みをする事。
2. 私たちは神の祝福に対してどう応答したらよいか。→ 主に心からの感謝を^{ささ}げよう。
3. あなたは神に感謝を表わすどんなことがあるか。

11/30

●話し合ってみよう

1. ザカリヤとエリサベツには、長い間の憂いがあった。それは何か。→ エリサベツは不妊の女であったため、彼らには子どもがなかったこと。
2. ザカリヤとエリサベツはどのような人だったか。→ 二人とも神の御前に正しい人であって、主の戒めと定めとを、みな落ち度なく行っていた。
3. 神は、ザカリヤとエリサベツ夫婦に特別な使命を与えられた。それは何か。→ 救い主イエス様の誕生に先立って、道備えをするヨハネの両親となること。

●考えてみよう

1. ザカリヤは御使いの告知を受け止めることができたか。→ 信仰をもって、すぐに受け止めることはできなかった。
2. ザカリヤの御使いへの返答によって、ザカリヤにどのようなことが起こったか。→ ものが言えないようにされた。
3. ヨハネの働きとは何か。→ ①多くの者に喜びと楽しみをもたらす。②イスラエルの多くの人々を、主なる神に立ち返らせる。③神に逆らう者に、義人の心を持たせて本心に立ち戻らせ、整えられた民を、主に備える。

●自分に当てはめよう

1. イスラエルには、救い主の誕生を待ち望む、長い間の祈りがあった。私たちも、神は約束を成就してくださることを信じて祈り続けよう。

12/7

●話し合ってみよう

1. 今からおよそ2千年前、ローマ帝国の初代皇帝アウグストは、支配していた国にある勅令を出した。その勅令とは何か。→ 人口調査。
2. 主の御使いが最初にキリスト来臨の知らせを伝えたのは誰か。→ 羊飼いたち。
3. 羊飼いは、ユダヤ教会から罪人として軽蔑され、排除されていた。なぜか。→ ①宮詣ができない。②野宿するために家の女性たちを守ることができない。③他人の土地に生えている草を自分の羊に食べさせているなど。

●考えてみよう

1. 御使いが伝えたキリスト誕生のしるしとは何か。→ 幼子が飼葉おけに寝かされているというもの。
2. 御使いが伝えた大きな喜びとは何か。→ 長く待ち望んでいた救い主が今日生まれたということ。
3. 救い主誕生の知らせを聞いた羊飼いたちは、どうしたか。→ すぐに従い、ダビデの町ベツレヘムへと走り出した。
4. 羊飼いたちは喜びのニュースを信じただけでなく、他にすることがある。それは何か。→ その場にいた人に伝えた。

●自分に当てはめよう

1. あなたも救い主誕生の知らせを教会で聞いた。どうするか。→ 私たちも羊飼いのように救い主誕生の知らせをお伝えしよう。

12/14

●話し合ってみよう

1. 東方の博士たちが旅をした目的は何か。→ 救い主にお会いするため。
2. 博士たちがヘロデ王の宮殿を訪ねたのはなぜか。→ 偉大なお方は王の宮殿にいたと考えたから。
3. 博士たちの知らせを聞いたヘロデは驚いた。それはなぜか。→ 自分以外の王はいらないと思ったから。

●考えてみよう

1. ヘロデはユダヤ人の王の誕生の知らせを聞いてどうしたか。→ この幼子を亡き者にしようと計画した。
2. 博士たちが、救い主に献げたものは何か。→ 黄金、乳香、没薬。
3. 救い主がお生まれになったという知らせは、祭司長や律法学者、エルサレムの住民たちにとって、恐れを抱かせる不安な出来事だった。何が不安だったのか。→ 新しい真実の王を受け入れられないため。
4. 博士たちは、救い主の誕生の場所を知って、ヘロデ王に教えたか。→ いいえ、教えなかった。そうはせずに、別の道から帰って行った。

●自分に当てはめよう

1. 救い主誕生の知らせに対して、邪魔者として受け入れない人々と、私の救い主と信じ受け入れた人々に分かれた。あなたはどちらか。

12/21

●話し合ってみよう

1. ヨハネが「ヨハネの手紙」を書くきっかけになったのはどんなことか。→ 偽り者、反キリスト、惑わす者という異端者が教会に現れたため、正しい神論、キリスト論を伝える必要が生じたため。
2. ヨハネが弟子や信徒に、ある自覚を促した。その自覚とは何か。→ 神の御霊によって新しく生まれたものは、神の愛を豊かに注がれているという自覚。

●考えてみよう

1. なぜ神の御子が天上の栄光を捨てて卑しき人間となり、十字架に裸をさらし、人々に侮辱されて死ななければならなかったのか。→ 人間の罪を贖い救うため。その理由を作ったのは、私たち人間である。
2. 私たちを通して、どうしたら見えない神の愛は現せると、ヨハネは言っているか。→ もし私たちが神に愛されている愛で互いに愛し合うなら。

●自分に当てはめよう

1. どうしても仲良く出来ない友だちはいないか。誰かを憎む心、赦せない心、受け入れられない心がないか。どうしたらその心が新しくされるのか。→ イエス様がこの私の醜い罪のために十字架にいのちを捨ててくださったと信じ、神の愛で心を満たしていただくとき。

12/28

●話し合ってみよう

1. 詩篇95篇はいつ頃礼拝に用いられたものか。→ バビロン捕囚から帰還してエルサレム神殿を建てた時(前516年)。
2. この詩篇記者は、神に向かって賛美の詩をもって喜ばしい声をあげようと勧めているが、どうしてか。→ 偶像の神はいのちがなく、何の力もない。しかし、主なる神は永遠から永遠まで生きておられ、大いなる神、大いなる王であるから。
3. 「わたしのわざを見たにもかかわらず」とある。どんなことか。→ 出エジプト他、数々の主のみわざを体験しながら、民がしばしば不信仰、不従順に陥ったことを厳しく指摘している。

●考えてみよう

1. 「地の深い所は主のみ手にあり、山々の頂もまた主のものである」とはどういうことか。→ 海の底の底や地の深いところから世界で一番高いてっぺんに至るまで、全部が神の御手の中にあり、その支配の中にあること。
2. 「きょう、そのみ声を聞くように」(7)とは、どのようなことか。→ 羊は羊飼いの声を聞き分けるように、私たちはイエス様の語られるみ声に聞くべきだということ。「きょう」は、主が私たちに与えてくださった絶好の機会のこと。

●自分に当てはめよう

1. 今年一年間で一番神に感謝したことは何か。